

銀色の道

夢叶うまで挑戦

学志舎 塾長 山田勝登



Vol. 12のトピックス

七夕

検定試験

保護者懇談会

中体連

夏プロ2009

教材

お断り

教師レベルアップ参考表

お知らせ

編集後記

みなさんこんにちは。今日は9月8日です。朝夕過ごしやすくなりました。とはいえ昼間はまだまだ暑い日が続いています。運動会もこれからたけなわ。皆頑張ってくださいね。さて、今回の「銀道」何とか9月中に仕上げたいと思っています。

ぼちぼち10月にある、私立高校の塾向け説明会の案内が届き始めました。今年ももうそんな季節になるのですね。

次男が誕生日(7/2)に友人にもらっ

たカブトムシ、2ヶ月たってもまだ元気です。昼間はじっとして、夜になるとガサゴソ元気です。規則正しい生活をしていますね。私も小さい頃カブトムシ、クワガタムシを飼っていましたが、2ヶ月以上生きているカブトムシは記憶にありません。いつまで生きるのか？

このカブトムシ、実は餌が違うんですよ。ホームセンターで売っている餌のゼリーの中でも一番いいのを、今年は買って与えているのです。

ゼリーの値段で生存日数が違うのか、このカブトムシの個体の生命力が強いのか、それはよく分かりません。

ただ、私が小さい頃はキュウリに砂糖をまぶしたものを与えていました。どうやら今のゼリーと比べると、栄養価は間違いなく低かったようです。そして昼間(カブトムシにとっては睡眠時間?)触って遊んでいました。

統計に出ています。朝ごはんをしっかり食べる子、夜もしっかり寝る子はそうでない子に比べて成績は良いそうです。

それではvol.12の発進です！

七夕

今年もみんなで2つずつ短冊に願いを書きました。昨年と変わった点は、千鳥橋付近の河原から、本物の竹を切ってこなかったこと。今年は店で、人工の笹を買って来ました。枯れることなく1週間、両教室でみんなの思いを眺めていたようです。



短冊を飾るNH小 H・Eさん

さて今年もみんなの短冊を、先生方に審査してもらいました。一人が3点を選び、その獲得数が多い順に紹介します。想いに優劣はありませんが、先生方の心をいかにかんだか、と言う観点で。ではまず育真館から。

一席 SF小4年 S君

「家族みんなが元気にくませますように」



はい、きましたね～。4年生のS君の願いはこれです、家族皆健康が一番！お父さん、お母さんも感激？

うちの子、今までにこんなことを書いたことがありません。5歳の次男に期待しよう。

二席 I中3年 Hさん

「今を生きる」



受験生の夏ですね、そして彼女には部活の陸上もまだまだ残っています。一日一日を精一杯頑張る決意が伝わってきます。いや～なんともいいですね。

三席 S中3年 S君

「岐阜県制覇！」



その通り、剣道団体でS中の大将として、見事岐阜県を制覇し、全国大会に出場しました。短冊からひしひしと気合が伝わってきました。余談ですが弟の中1のY君は

個人で岐阜県を制覇しましたね！

続いて至誠館から

一席 S高校2年 E君

「今年の夏は寂しい思いをしない」



至誠館の先生方に大うけでした。昨年の夏はどんな寂しい思いをしたのか...聞きませんでした。何やら青春の香りがぶんぶん漂ってきますね。私もこれ...好きです。

二席 S中3年 Y君

「自分にもっと厳しくなれますように」



受験生として、この夏にかける想いが伝わってきます。学志舎の今年の春・夏・冬ブクの心...「十戦十勝への道」まさにその通りです。

三席 N中3年 Cさん

「いつも「ちひろ先生！！」って頼られて、たくさんの子に愛されるステキな保育士になれますように」



その光景がまぶたに浮かぶようです。きっと選んだ先生方もその姿が想像されたのでしょう。彼女ならきっとそんな保育士になれます。

惜しくも選には漏れましたが、力作・珍作を紹介します。

「いけえ - - - - - !!」 稲川先生
・あまりの迫力に、生徒を選ぶはずが、先生に票を入れてしまいました。

「塾長の黒い毛が増えますように」

長良中1年 Y君

・はいはい、確かに薄くなりました。白くなりました。どうすれば先生の頭がこれ以上薄くならないか、白髪が増えないか、みんなわかっているだろうな!!!

「私は唄になりたい」

長良中3年 J君

・実は惜しくも至誠館の4位。これには後日談があります。聞いてみました。

「なんで歌やなくて唄なんや？」

「貝と書いたつもりが間違えた・・・」

票を入れた先生方、思わずのけぞりましたな。

というわけで、来年の七夕に、みんな熱き想いをしたためましょう。

検定試験

今回も多くの生徒が検定試験にチャレンジしてくれました。合格者の新しい合格証のコピーと写真が教室の壁に貼られています。

全員の合格証が貼られる日はいつでしょうか？

では今回、初めての挑戦で、漢字・英語・歴史と3検定に合格した、S中学1年のKさんの感想をどうぞ。



私が漢字・英語・歴史の3つの検定試験に

受かった理由は2つあります。

一つ目はヤル気です。実は私は自分で「受きたい」と思って検定試験を受けたのではなく、母に無理やり受けさせられたのです。それで最初はすごくヤル気がなく、いやいや勉強をしていました。しかし2週間前のことでした。「そんなにやらなくて受かるのか」と言われたので、「うん」と答えました。その直後に「ちょっとしかやってない人が何ができるんや。見とってみ、絶対に受からへんに。」と母に言われ、私は「絶対に受かってやる」と思い、それからヤル気が出てきました。そして翌日から、目標を持ってヤル気を保つことができたのです。

2つ目は勉強のやり方です。今までは、一通りだけやって、間違えたところだけを何度もやるやり方でした。今回、途中からこのやり方でやっているうちに、これでは受かるわけが無い、受かっても本当に頭に入っていないかもしれないと思い始めました。そこで次のやり方に変えました。そのやり方とは、一通りで終わるのではなく、何回も繰り返すということです。まず一通りやって、間違えた問題と本当の答えを書き出します。その答えを解説を見ながら、覚えるまで書き続けます。それを全部正解するまで何度も繰り返します。

一回目は間違いが多くて、本当に受かるか心配でした。それでも繰り返し繰り返しやっていくうちに、間違いの数が減っていきました。間違いの数が減っていくと、達成感とやりがいを感じました。

このような取り組みが、テストの結果につな

がり、3つの検定に受かりことができました。これからも頑張って、検定試験に挑戦したいと思います。

保護者懇談会

7月4・5日は至誠館、11・12日は育真館、12日以降も平日夜、昼、最終は終業式を終えた後まで続きました。



来塾いただいた保護者の皆様、ありがとうございました。いろいろな話をさせていただきました。年を追うごとに感じるのは、「子供を信じる」親御さんが多くなってきたということ。というより、私の方針がその方向なので、学志舎に入ってくれる方はそういう方が多くなってきた、ということでしょうか。

毎度の事ながら、子供の話は4,5分で、あとは世間話に終始、笑って30分が終わるお母さんが何人かいます。笑いながらも、本当は身が引き締まる思いがします。「何

も言わない」の裏はどういうことかと考えるとね…。ありがたいことです。

さて、今回もここでは書けないような、感動で鳥肌が立つ話をいくつか聞かせてもらいました。本当にありがとうございました。それでは印象に残ったお母さんの話から一つ。

かつては子供の成績のことばかり頭にあって、子供にも点数のことばかり言ってきたが、今はその子なりに頑張ってくれたらいいと思うようになった。

当時はもちろん子供のことを考えてと思っていたが、子供の成績を自慢したいという、親のエゴがあった。

その気持ちが無くなってからは、いらないことも言わなくなって、親子関係もよくなり、逆に勉強面もよくなった。

穏やかにかみしめるように話してくださいましたお母さん。その笑顔は本当に素敵でした。きっと子供にかけられる言葉にも、「愛情・信頼・尊重」がこめられているんですよね。そんな笑顔で、会話で接していたら、良い方向に進むのは当然ですよ。

そう、人はみな顔かたちが違うように、もって生まれたものは違います。大切な事は、自分の責任（もって生まれた素質）の範囲を全うすること！遺伝子上はある程度似ていても、子供は親のコピーではないのです。

7月の「心の授業」のDVDの中でK先生が言っていた言葉の中から…

- ・ 思い切り泣きたかった
- ・ 人生の主人公に戻れました
- ・ 出合いに感謝して大切に生きる
- ・ 疑うより信じていたい
- ・ この体を神様に返すときに言う言葉を決めていきます。「生かしてもらったこの体、自分らしく幸せに使い切りました。ありがとうございます」

このほかいろんな言葉をK先生は自分自身に、見る人に投げかけています。このいろんな言葉、子供に置き換えたり、自分に置き換えたり、見るたびにいろんな取り方ができます。そして、これを打っている今、もう一度見ました。もう20回以上見ていますが、やっぱり涙が出そうになります。

きっとお父さん、お母さんの真の願いは、わが子とその体を神様に返すとき、

「お父さんお母さんにもらったこの体、自分らしく幸せに使い切りました。ありがとうございます！」

と言えるそんな人生を歩んで欲しいと言うことではないでしょうか？

そして、お父さん、お母さんが自分自身に対して向ける思いも。

今、いろんなことで悩んでいる皆さん、その現象は、あなたがそれを解決できるから、あなたの成長のために神様がその試練

を与えてくださっている、そう考えられないでしょうか？

DVD鑑賞会で見た中村文昭さんはそれを逆に楽しんでいるかのようですね。

「無理」「絶対に出来ない」って言われると逆に燃える。それを成し遂げたときのことを考えて、全力投球する。

「絶対に無理」と言われてたんですが、ほら、できてしまいました！って後で絶対に言えるようにしてみせるって。

今は苦しくても、あとで必ず笑顔で思い出せる日が必ず来る！

私はそう信じて、苦闘しながら？作り笑顔で??日々を送っています。

認知7回の法則…人は同じものを7回見て初めて、本当に自分のものになる。感動プログラム21日…人は感動しても、3週間くらいたつと、元に戻ってしまう。

私が所属する「21世紀の教育を考える塾の会」で口をすっぱくして言われることです。どうぞよかったと思えるものは何度も繰り返し見てください、読んで下さい。

はい、私が勝手にプレゼントする冊子、DVDもその仲間に入れてもらえると幸いです。

なんだか、懇談会の話じゃなかったの？と言われそうですね。長年お付き合いをして下さっている保護者の方は、「あ、また塾長の話が横道にそれた」と思っていることでしょう。どうぞご容赦下さい。(笑)

◆中体連◆

今年も行ってきました。教室とはまた違った生徒達の真剣なまなざし、熱いプレー、涙。

7月18日、東部体育館ではバレーボールの1回戦がありました。N中対I中。N中のOさん、頑張ってスパイクを打つも残念ながら敗退。実は相手のI中のキャプテンが私の次女。試合後お母さんに会いました。

「ごめんなさい。勝っちゃって。」

「いえいえ、うちの完敗でした。次のI中は1番と4番をマークしてくださいね」

次の試合で、小椋さんのお母さんが親切にも、気をつけるように教えてくれた、I中の1番と4番の選手にいいように打たれまくり、娘のI中も敗退。



アタッカーとして頑張ったOさん

娘の試合が終わり、ロビーの長椅子に座っていると、1回戦、2回戦と手に汗握るシーソーゲームを制して3回戦に進んだS中学の選手達がやってきました。どうやら3

試合目で負けたようでした。

選手達のすすり泣きの中、コーチの話が終わり、監督の先生の話が始まりました。いきなり生徒に謝ったのです。

「君たちには申し訳ないことをした。もっといい練習試合を組んで、もっといい練習をさせてあげられたのではないかと思います。」

そして感謝。

「3年生の生徒、本当によくやった。また練習では1年生の面倒もよく見てくれた。君たちに会えて先生は本当によかった。ありがとう」

さらに

「今日はいいい負け方をしたんじゃないかと思う。先生が言っていた様に、いつかは負けるときがくる。全国大会で優勝する1校を除いては、どの中学校も必ず負ける。大切なのはそのときの試合がどんな内容なのか。君たちは先生が見た限りでは、100%の力を出し切った。よくがんばったと思う。本当にありがとう」

こんな感じの話をしていました。

う～ん、話を聞いている限りでは、私はこの先生好きですね。

その後、ロビーに集合したうちの次女のコーチは、試合後私たち親にこのようなことを言いました。

「4月ころの力なら、一回も勝てんかったでしょう。私がここまで作ってきました。」

私たちは「ありがとうございました」と頭を下げました。

比べることは良くないことですが、ある程度のレベルまでくれば、指導者は技術うんぬんより、ハートがどうなのか…私にはそっちが大事なな。

翌19日は、西部体育館でHN中の女子バスケットボールの応援。

私が体育館に着くと、すでに試合は始まっています。7点ビハインド。しかしSさんがリバウンドを取る、シュートを放つ。



相手のガードをかわし、シュートを打つSさん

まためまぐるしく動き回るYさんの活躍で20-20の同点に追いついたのです。



同点に追いつくYさんのフリースロー

見ていてゾクゾクと鳥肌が立ってきました。その勢いで逆に25-20までリードしたのです。そのとき私は思いました「これは勝てるのではないか？」

そして彼女達からもそんな感じを受けたのです。フッと瞬間緊張感が少し抜けたような雰囲気。いやな予感がよぎりました。そして予感は当たってしまいました。相手チームの猛追で同点、そしてあっという間に一気の逆転。そのまま追いつくことなく点差を広げられ、最後は34-43で試合終了。

後日そのことをSさんに聞いてみました。すると私が感じたことを、彼女もコートの中で感じていたそうです。

「勝てるんじゃないか?と思った瞬間、それまでの緊張感がゆるんだ…。」



HN中のベンチには、学志舎の必勝うちわ「十戦十勝への道」が活躍していました。

けちをつけるつもりは全く無いのですが、先生方をお願いが一言。

追い上げているときとか、リードしているときは椅子から立ち上がり、大きな声で指示を出したり、選手に声をかけたり、とても元気だと思います。気持ちは分からないでもないのですが、逆に追いつかれ、リードされている劣勢のときにこそ、シュンとしないで、そして最後まで諦めないで、子供達の士気を鼓舞する応援をしてくださいね！

さて最後に剣道。



面を打ち込み1本を取る小森君

S1 中学のY君、S2 中のS君とも午前中の団体の予選を勝ち上がり、決勝トーナメントに進みました。S1 中は残念ながら、トーナメント1回戦で敗退しましたが、S2 中は下馬評どおり、準決勝に進みました。試合前に2階の観客席の最前列にいた私に気づいたS君、ペコっとお辞儀をしました。私も親指を立てて、「ガンバレ！」



じりじりと間合いを詰めるS君

そして、S3 中との決勝進出をかけた戦い。2 - 1から副将が破れ、大将決戦にもつれ込んだのです。そう、S君が大将。結果は予想外の0 - 1負け。

それまでは試合の後、防具を持ってすぐに移動して、余裕の表情を見せていたS君、正座のまま下を向いて動かない。3位決定戦では勝ったが彼の様子がおかしい。

午前の団体戦が終わり、昼食に外へ出ようと通路を歩いていると、Y君のお父さんとお母さん。「団体戦、決勝トーナメントまでいきましたね！」と話をしていました。するとお母さんが「先生、K君」

振り向くと、目を真っ赤にしたS君が立っていました。「塾長、すみません」と言うやポロポロと涙が止まらないのです。

「先生に何も謝ることは無いぞ。午後からは個人戦があるんやろう。終わったことは気にするな。」

汗でぐっしょりぬれた彼の道着の肩を抱いて、ぽんぽんと背中をたたき「切り替える、気持ちを切り替える」と言うより他に言葉が見つかりませんでした。相当悔しかったのでしょうかね。

その後ですが、S君、県大会団体で優勝し、東海大会では準優勝。そして全国大会で熊本に行ってきました。弟のY君(中1)は東海大会の個人戦1年生で優勝し、お兄ちゃんとともに全国大会へ。



面をつけるS君の隣で戦況を見つめるY君

全員の試合を見に行くことが出来ればいいのですが、行けなくてごめんなさい。しかし、今年も教室では見る事が出来ない、生徒の別の顔を見ることができました。

必死で戦う子供達から飛び散る汗に、鳥肌が立つとともに、青春の熱き想いを感じました。

そして毎年私の青春のほろ苦い思い出が蘇ります。

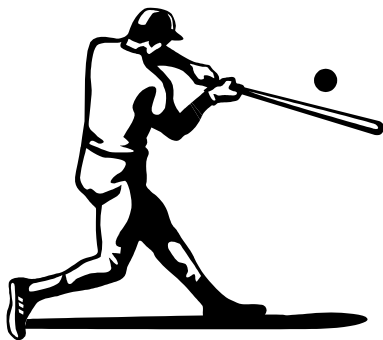
私からこの話を聞いた生徒がいると思いますが・・・もしタイムマシンがあれば、中2の冬に戻りたい、できればその頃から部活をやり直したい。そう、今でも悔いを残しています。えっ勉強には? って。へいへい、それもその通りです。(笑)

野球をやっていました。最後の大会ではあっけなく初戦で負けました。今でもその状況をはっきり記憶しています。終わった後、うちに帰りタオルケットをかぶってじっとしていたことを。「何で負けたんだろう?」その言葉が頭に渦巻いていました。

1回表、相手の1番バッターは、今でも付き合いのある関西在住の友人。緊張していたんだと思います。一球目ストレート、2球目はカーブでカウントを取る。1球はずして勝負の4球目、三振を取りにいった縦のカーブ(当時はドロップといていた)が外に大きく外れ「あれ?」と思ったこと。自信を持っていた球が思いのほか大きくはずれ動揺したことを。

1, 2番を四球で歩かせ、送りバントの後、2死から5番バッターにド真ん中に入ったカーブをセンター前にヒットを打たれたこと。その後は最終回までヒット1本

に押さえましたが、そのまま0 - 2で負け。今思えば当時のチームは意思の統一が無かった。なんとなく部活をやっていたように記憶しています。



もちろんその時々で、苦しい練習もありました。歯を食いしばって練習をしたこともありました。しかし、中村文昭さんの講演ではありませんが、「何のためにやっているのか・・・何のために練習をしているのか？」それが無かったように思います。本気で県大会に絶対に出るぞ！とか、市大会で優勝しようとか。

だから簡単に負けてしまった。

不運も重なるもので、バスの会社が時間を1時間間違え遅れてきて、グラウンドに着いたのが、試合開始寸前。キャッチボールもできないまま試合開始。打撃絶好調だったチームから好機に快音が聞かれないまま試合終了。

だから部活をやっている生徒には、一試合でも多く、一日でも長く部活をやってほしい、そう思っています。

夏プロ2009

今年の夏プロは2009年の通年のテーマ「十戦十勝への道 ～九勝死守の巻～」でした。7月上旬から5年生以上は各自計画を立てて夏プロに入りました。

8月7日、夏プロ名物「オールナイト学習会」が開催されました。夜9時から翌朝7時までの10時間のマラソン学習会です。



今年はHN中3年、H.Sさんの生徒宣誓で幕を開けました。



それでは今回のその他のチャレンジャーを紹介しましょう。



I中3年 K.M

S.M中2年 M.T



HN中3年 R.Y

S中3年 Y.K



U中2年 Y.S

N中3年 M.T



HN中3年 M.N

GF中2年 Y.S



N中3年 C.O

S中3年 A.T



I中3年 J.K

I中3年 H.Y

以上13名で始めました。

始まってすぐに、お約束の3年生は不規則動詞、2年生は今学年で習った単語のテスト。12時までには全員合格を目指してGO! 全員早々と無事合格。



真剣に勉強に取り組む



休憩時間意に何を思いクッキーをほおぼる?

0時を過ぎ、最初の休憩時間M.Tさんが「1時半から3時までの間はトイレに霊が出る」と言い始め、この話で持ちきり。よって次の休憩時間では、急遽「肝試し大会」…北側の教室の一番奥にノートを置き、一人ずつ真っ暗な中を、はす向かいの100円ショップで買ってきた小さなライトを持って名前を記入してくる。ただそれだけなんです「ギャーギャー」うるさい事。盛り上がりました。まだまだ眠気の「ネ」の字も無い様子。

草木も眠る丑三つ時、ぼちぼち睡魔が襲ってきては…と神聖なる教室で、先生 VS 生徒の「古今東西ゲーム」の目覚ましゲームが繰り広げられる。「食べ物」の御題でなんと先生チームの負け。私はローソンへアイスキャンデーを買いに行くこととなった。

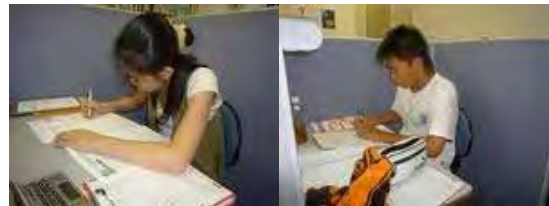


アイスを食べながらピース
この辺から時間が過ぎるのが、異様に遅く感じてくる。

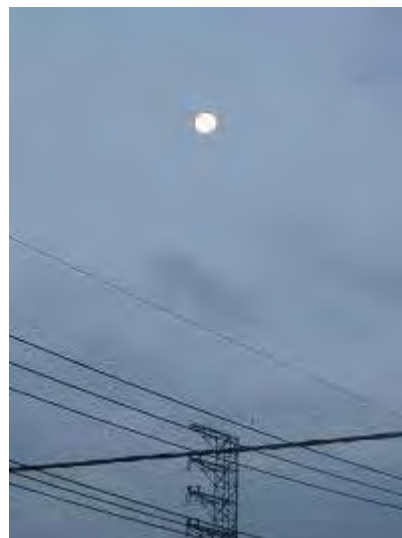
ついに出ました、撃沈第一号。不覚にも写真撮影をされてしまった？



この時間帯からは目を閉じると、睡魔が不意に襲ってくる。



眠たい目をこすりながらガンバレ
4時58分空が白々と明けてきた。



西の空に見えた月。夜明けは近い。
撃沈第2号の候補生がチラホラ見えてきた。みんなガンバレ~!

5時からの休憩時間に順番に「歴史上の人物」をホワイトボードに書いていくオロナミンC争奪、団体戦を行いました。

なんとここでも先生チームはAチームに負けてしまいました。私は賞品のオロナミンCを求めて再度ローソンへ。



2年生のお二人さん、強かったね！まいった。完全に夜が明けた6時。最後の1時間。撃沈2号。続いて3号。



寝そうになっては、かぶりを振って頑張っていたんですが、ゴールを目前に二人沈んでしまいました。

そしてそのときはやってきました。

午前7時。

前日の9時から始まった、オールナイト学習会もなんとか無事？に終了しました。全員で塾の前で記念写真を撮って解散。



それではGF中2年Y.Sさんの感想をどうぞ。

私は今回学志舎のオールナイト学習会を受けてみて「すごい！」の一言に尽きるなと思いました。参加する前は、誰もが黙々と勉強をやるだけだと思っていて、正直言って怖いイメージを持っていました。でも実際にオールナイトが始まってみると、やる時はひたすら勉強をやるだけだけど、休憩時間はすごく楽しくて明るい雰囲気です、思わずホッとしました。

少し疲れてきたな、と感じてきた3回目の休憩では、グループ対抗でのブレイクトークをしてリフレッシュしたり、きもだめしをして目を覚まさせたりと、一回一回の勉強ことでも集中することが出来ました。これならば達成感も大きいし、楽しみながら勉強することのできたので、絶対に行って損はないと思うし、行く価値は大きいと思うので、また今度あるときはぜひ行きたいと思いました。

勉強なんて、中学生にとって決して面白いものではない。徹夜で勉強したからって、すぐに成績が上がるわけでもない。

しかし、オールナイト学習会に自分から参加した子供達。何事にも挑戦しようとする、その気持ちが大切。自分から進んで一歩踏み出す、その精神。

特に2年生の女の子3人。自分一人で、友達がいないのに挑戦してくれました。参加してくれたみんな、

本当にありがとう。

体力が続く限り先生も、オールナイト学習会に挑戦します。

さて今回の夏プロでは「エジソンクラブ」の体験学習講座に多くの生徒が参加してくれました。育真館では席がいっぱいになり、最後は申し込みの電話をいただいたのに、お断りをしないとイケないという状況になりました。



基礎学習練習帳だけで20冊以上やりきったS君・I君
エジソンクラブとは、日本基礎学習協会指定の新村式教材を取り入れた学習です。基礎学習練習帳、計算練習帳、文章問題を中心にパズル・積み木を取り入れた、新村先生が30数年かかって作り上げたもの

です。

言い方は悪いのですが、私が初めてこの教材を見たときの感想です。「30年前くらい昔の、田舎の教材屋さんが作ったような...」しかし、中身をめくって見て、「あ、これはいい！」

7月26日、私の友人の天津のK先生の塾に新村先生が講演に来ました。K先生にお願いをして、私も聞きに行きました。

印象に残った話。

基礎学習練習帳は1～4年で100冊近くあります。新村先生の塾で、後に医学部をはじめ、難関大学に入る生徒は、200～300冊くらいを繰り返し学習するそうです。分かっているところもさらっと流すのではなく、さてここからが大切なのです、「脳ミソにすり込むことが大事」だと先生は言われました。

なるほど、す・り・こ・む。この表現ですね。中学に入って伸びる基礎を徹底的に作るのが新村式の真髄がこの言葉に表されています。

さらに、パズル・積み木なども併用して脳の開発をするそうです。

さて、今回はお母さん方から予想された質問がありました。

「街のK式教室とどうちがうのですか？」
きっと内容を見てもらったらお分かりになったと思います。

新村先生の言葉を借りると「数字の概念がきちっと出来上がる前に、数字を記号として認識させる方法は、計算は速くできるが

後に弊害が出る場合があるから、そこだけ気をつけないといけない」とか。

我々塾人ならば、その弊害の出た生徒を何人となき経験していますが、「計算力をつける」という目的を持って、小さいうちにお母さんが数の概念をしっかり教えた後、高学年になるまで通うことは結構かと思えます。

これに関連して、今年の全国一斉学力調査より。

皆さんもご存知のように、この調査には計算力を問うA問題と現在の世界的学力観である、いわゆる「PISA問題」を問うB問題があります。いまの世界的学力観は「実生活でいかに活用できるか？」これが問われています。すなわち生きた学力。この観点から見ると、日本の子供達は計算は出来るが、応用できない、活用できないという結果が出てきています。世界の標準レベルから落ちてきていると言う結果が物語っています。

今回の6年生のB問題より。

黄色の添付資料の大問3の(1)と(3)を見てください。

全国平均で(1)は正答率40%、(3)は34%という結果です。

どう思いますか？

これが今の日本の子供達の現状です。A問題のような機械的計算は出来るが、それを応用する、考える、文章にするとということが出来ない子供が増えているのです。

グローバルスタンダードは、この学力観なのです。考える力なのです。そして今都会で人気のある、公立中高一貫校で求められている、実施されている学習内容も、このPISAに深く関わる内容なのです。

この夏小学生5年生以上と、中学1・2年に課した宿題は、中高一貫校対策の問題より出しました。ちょっと違うでしょ？脳ミソをよじって考えなければ解けません。そして「面白い」という感覚を持った生徒が少なからずいましたよね。問題をもらったそのときから、解きたくてうずうずしていた生徒達。

なぜ都会の公立中高一貫校がこのような、PISA問題を真剣に扱うのか、分かるでしょ？

本物の学力を養成するためです。

岐阜ではまだまだそういう気配はありません。しかし、学志舎はいつそのような本物の波が押し寄せても対処できるように今年からその講座をどこの塾に先立って用意しました。そしてこの春「PISA問題を考える」というチラシを打ちました。

反響はなんと「0」

まだまだ岐阜では認知されていないようです。しかし近い将来必ずやってきます。文部科学省が世論の非難を避けるためにその方向に向いているからです。彼らは子供達のためにやっているのではありません。だったら、「ゆとり教育」がどうのこうのと能天気なことを言わずに世界の動向を察知し、もっと早く手を打っているは

ずですからね。なぜ私が昨年度は「実感算数」そして今年から「エジソンクラブ」を導入したか分かってもらえると思います。世界が求める学力観(今では文科省がそれを追いかけている)を求めているからです。

そしてそれが、「2対8の法則」の上位2に入る子供になってもらうために、学習面で必要であると考えているからなのです。もちろん「2」に入るためには「智」だけではいけません。「徳」が必要です。そのために「心の授業」を定期的実施するようになったのです。

…夏プロについて書いていたつもりが、大きく脱線してしました。



この際もう少し書いてしまいますね。学志舎の塾としての目的は今述べたように2対8の法則の、上位2割に入ってもらうことです。いわば「勝ち組」でもなく「負け組」でもなく「幸組」に入ってもらうことです。そのためには「自立」することが必要になります。「学ぶ力」が必要になります。

そして目標として「成績アップ(点数)」や「入試の合格」があるのです。

「目標」と「目的」は違います。

分かりやすく例に挙げると、例えば中学の部活動。目的は部活動を通じて心身の健全な成長を促す。また競技を通じてスキルの向上を図り、その仲間との友情、また先輩後輩との上下関係など、礼儀を含めた人間関係を学ぶことにあると私は思っています。

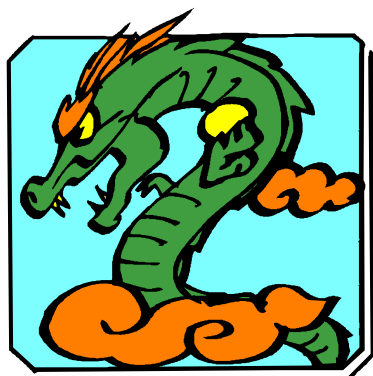
そして目標は、レギュラーメンバーになるとか、県大会に出場するとか、個人で市大会のベスト4に入るとか、野球だったら3割バッターになるとか、吹奏楽なら〇〇の曲がうまく演奏できるようになるとか、目的への進捗をはかるバロメーターとでも言いましょうか。目的という大きなものへの各自のチェックポイントとでもいいでしょうかそういうものだと考えています。

教材

9月18日、大津のK先生の塾を訪問しました。7月にエジソンクラブの新村先生の講演以来でした。今回の目的は？そう英語の教材「DKM」を実際に見に行くためでした。

本年春、DKMの噂をK先生から聞きました。東京のN先生という個人塾を営んでいる先生が作った教材で、パソコンを使い、ペーパー教材は一切使わない。

しかし効果は抜群との事でした。
そのときは、パソコンだけの学習？学志舎
が4年前まで使っていた「K学習システム」
のようなものかな？と思っていました。



夏休み前のことです、大阪は天王寺のS
塾のM先生がDKMに惚れ込んで導入し
たと聞きました。我々同志「21世紀
の教育を考える塾の会」の中でも、金沢の
K塾のN先生と並んで教材通と言われて
いる先生です。そして英語の教務に定評が
あるK先生も導入を決めたとのことでし
た。そして夏休みが終わり、その結果が出
たと言うのです。

K先生の塾でも、生徒が夢中になってパソ
コンの前で勉強しているそうです。M先生
からメールをもらいましたので、掲載しま
す。

DKMを導入してちょうど3ヶ月たちますが、ぼ
ちぼちと実際の成果が出始めています。
僕自身の実感は、導入後すぐに出てきました
やはり実際に数字となつてあらわれるとうれしい
ものです。

高3のT君

7月最初に導入 DKMを中3まで終了し、T
LTの高校受験1000単語と300熟語。
300熟語はあと3時間ほどで完成という
お盆休み明けに受けたセンター模試の結果、
それまでは100点前後をさまよっていたのが
135点をとってきました。

中3のUさん

もともと英語はできる方でしたが、地元公立中の
実力テストはかなり難しく、今まで90点台をと
った生徒を知りません。

DKMを中3の半分まで終了後、T LTの高校受
験1000単語と300熟語を完成させた 夏休
み明けの実力で96点達成

中3のK君

DKM開始直後とその2ヶ月後の五ツ木の模試の
偏差値の変化

	国語	社会	理科	英語
7/12	54.0	61.7	51.5	49.6
9/13	62.0	63.3	61.5	62.0

(9月13日の時点で T LTの300熟語の途中)

3人ともDKMを始めて以来、塾内で紙教材は一
切使っていません。

このドラゴンにはお約束があります。大学
受験生と言えども、中1の初めから学習す
るのです。信じられますか？

もちろん例外はあり、中2の25項目(進
行形)のところを一発満点合格すると、中
2からでよいと言うものです。

N先生の塾で、国立大学医学部を受験

する生徒も、中2の25を間違えて、中1の最初から始めたそうです。

内緒にしておこうと思いましたが、恥をしのんで言いますね。実は私も間違えました。(汗・汗汗)

このドラゴン、通信大手のK社の方がその内容に惚れ込み、N先生にぜひ扱わせて欲しいと頼み込んだとの事です。しかし、先生は大手の会社が扱うと音とか色々、自分が開発したものと変わってくることを危惧して、最初は断ったそうです。

しかし、ネット配信をすることとなった今、(今まではCD版しかなかった)やはり力を借りなくてはいけなくなり、K社と組むこととなったそうです。まだ全国で20の塾も使用してない教材です。東海4県では、学志舎と三重の「21世紀の教育を考える塾の会」の同志のI先生の2塾だけです。

現在3月の完全完成を目指しています。完成したときは「TD」と言う名前になるそうです。11月1日、その勉強会が大阪のM先生の塾であります。もちろん行ってきます。10月11日は岡山で高校の部の映像教材及び運営の勉強会、18日は京都でコーチング検定試験、25日は京都でやはり高校の部の別の映像教材の勉強会に行きます。大学受験のための高校の部を強化します。

来年に向けて、今勉強しています。私には浪人生、高2、中3、そして年中さんの子どもがいます。上3人をずっと見てきて、

その経験から、年中さんの次男を塾に入れるなら、

これだ！

と言うような塾の姿を描いています。キーワードはもちろん、社会の上位2割にはいるための自立です。

そして大学入試(目標)に勝つためのシステムを完成させます。といっても毎年新しい教材が出るので、使用教材は少し変わることがあるかもしれませんが。

簡単に言うと、小学生は、中学以降伸びるしっかりとした基礎固めと、PISAを中心とした実践型学習。

そして中学生は、そのしっかりした基礎の上に「自立学習」の育成。

高校生は「自立学習」の完成と塾での最終目標である大学受験への勝利。

その間、「心の授業」を通してバランスの取れた生徒になってもらう、2割に入る人材育成に注力します。

多くの子供達の最終の就職試験から下ろしていくと、大学入試、高校はどうしないといけないのか、中学ではどうしないといけないのか、小学校では何をしないといけないのかが見えてきます。

するとどうしても、学校の補習とか、後追いの授業では、私の頭の中では成り立たないのです。

お父さん、お母さんもお分りのように、今の指導要領は語弊があるかもしれませんが、最低限のことしかやっていません。

我々大人の時代はもっと多くの時間を費やし、多くのことを学んだはずです。土曜日は午前中授業がありました。2時間続きの理科の実験授業もありました。作文、感想文を書かされる機会もはるかに多かったです。運動不足からか、体力測定の結果、子供達の体力は下がってきています。道徳の時間はなくなり、陰湿ないじめがはびこっています。そしてそれがわかっていても見て見ぬ振りをする…。

モンスターペアレント、チルドレンといった昔では考えられない存在、いかに加減な文科省の方針に振り回され、学校の先生方も大変な時代かもしれません。

塾はもう学校とは別の存在、独自の指導をする時代ではないかと考えています。といっても学校の補習・補完をすることも否定はしません。

ただ学志舎はそうではない、少なくともうちに来る子供達の近未来のビジョンを明確にし、その方針で子供達の各時代を任せていただける塾として存在しないといけないと思っています。

少なくとも「そんな無理」「習ってないからできない」こんな言葉は学志舎の教室にはいらぬのです。

中村文昭さんのDVDの最後の富士登山を覚えてますか？(7月以降に入塾した生徒、保護者の皆さんには、今月24日に中村氏のDVD鑑賞会を実施します)小学校1年生の中村さんの次男が、小学校1年生で富士山に登るのを無理だと言われたとき

「お父さん、無理だと言われたよね。無理だと言われるとファイトがわくよね！」そして登山に挑戦し、ゲロゲロもどしながらも、真っ青な顔になっても登頂した、あれですよ。

そんな逞しい子供達、いや近未来の大人になって欲しいのです。それじゃないと、上位2割に入る大人にはなれませんからね。



お断り

かつて退塾をお願いした生徒は2名いますが、塾を始めて13年、初めて入塾を断りました。7月のことでした。

なぜ断ったか？

席はまだ空いています。各学年募集しています。塾の経営からすると、一人でも多くの生徒が欲しい、と言うのが偽らざる本音です。しかし、それよりも学志舎という塾をどんな塾にしたいのか、それが勝ったからです。

今まで学志舎をこんな塾にしたい、と書いてきました。それに合致しなかったのです。学志舎には入塾テストはありません。しかし入塾2つの条件があります。塾案内に書いてあります。

きちんと挨拶が出来る

向上心がある(ヤル気)

今回これを厳格に実施しました。今後もその方針です。

ヤル気のない生徒が醸し出す雰囲気といったものは、個別指導といえども肌で感じます。腐ったミカンは周りをも腐らせます。だから学志舎にそぐわない生徒の入塾は、教室の雰囲気を守るためにも断らないといけません。

お子様の入塾を希望していたお母さんには、それとなく分かってもらえるようにお話をしました。

学志舎 = 学ぼうとする志がある

子供達のための舎(在り処・ありか)

なのです。



教師レベルアップ参考表

7月の授業カルテと共に、参考表の記入・提出をお願いしました。多くの皆さんに協力をいただき58のサンプルが集まりました。ありがとうございました。

今回は結果発表をしますと宣言しましたが、さあ、いきますよ。

と、その前にどんなものだったか、8月以降に入塾した方に説明しましょう。

教師名() 先生)科目()

項目評価	よい	ややよい	普通	ややよくない	よくない
ほめてくれるか					
熱意はあるか					
親しみやすいか					
勉強のアドバイス					
この先生でよいか					

上記の様な表の該当する欄に丸をつけてもらうのと、言われてうれしかった言葉を書いてもらいました。今回は点数にしました。

よい = 10点 ややよい = 5点

普通 = 0点 ややよくない = 5点

よくない = 10点

さて以下は平均点です。

褒めてくれるか 7.7点

熱意はあるか 8.2点

親しみやすいか 8.5点

勉強のアドバイス 8.1点

この先生でよいか 8.9点

以上のような結果となりました。私の中での及第点は7.5点。つまり「普通」では不合格ということです。ややよいが、最低レベルと考えています。何とかクリアーできましたが、次回は平均点9点を目標に教師一丸となって頑張ります。

ちなみに言われてうれしかった言葉の

1は・・・「頑張ったね!」でした。

生徒が一生懸命努力したことを、そのまま素直に承認した、その言葉ですね。

正直に言いますと、今回平均点が7.5点以下の先生が一人いました。やっぱりそうか・・・研修期間、最も私の注意が多かった先生でした。もう一度研修に戻らないといけないと思っていました。秋に塾に復帰する前にそれを告げるつもりでしたが、夏休み中に本人から塾の教師を辞退したいとの連絡がありました。

完璧な先生なんていません。教師も成長していくものです。個人差はあります。研修期間はもう一つパツとしなっただけ、半年後にはピッカピッカになった先生はこの13年間に何人もいます。

私は面接のとき、教師研修会のときにこういいます。

「うちの塾は時給いくらいくらで生徒を教える、それだけの関係じゃない。うちの塾で君たちが人間力をアップすることが大切。この塾をやめるときには立派な大人として社会に通用する人間になってもらう。学志舎に勤めてよかったと思っ

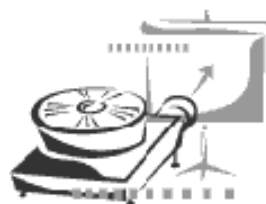
てるようにしたい。そして先生に会えてよかった、と生徒に言ってもらえるように、そうなって欲しい」と。

お知らせ

学志舎カレンダーの変更・追加です。

- * 10月17日(土)にPMC(子供の成長を見守る父母の会)を行う予定でしたが、11月3日(火・祝)の夜7時からに変更します。場所はNSの2F研修室です。
- * 10月24日(土)夜7時から、中村文昭氏のDVD鑑賞会を行います。7月以降の入塾者親子が対象ですが、都合で参加できなくて、どんなものか見てみたいお父さん、お母さん、再度見てみたい生徒の参加もぜひお待ちしております。場所はMKの5F第一小会議室です。

以上2件とも後日案内お渡しします。今しばらくお待ち下さい。



編集後記

一ヶ月近くに亘って書いてきた「銀道 vol.12」も終わりに近づいてきました。

何時もそうなのですが、気分が乗らずに無理やり書いたときって、後で読むと全くダメですね。ブログもそうです。

私のブログを読んでくださっている方は、アップの日と書いた日に数日のずれがあることに気づいているでしょう。あれは書いた後気分的にアップできずに、その後読んでは少し筆を入れてはアップしているからなのです。もちろん、途中で書くの（打つ）を止めているときもあります。

時間と共に書くことが多くなりますね。（笑）

夜中に一人でパソコンの前で打っていると、いろんなことが頭をめぐります。

あれもしたい、これもしたい。

すべて「自立学習」と「コーチング」からの発想です。

子供達が自分で自身の中の「答」を見つけ、自分で考え実行する。

そのための環境は？教材は？教師は？

かつて驚くような伸びを見せた生徒に共通していることは、「自立」なのです。今、塾業界は「黒板塾」「個別指導塾」の2つに大きく2つに分けられますが、私の同志の中でも新しい形として、「自立指導型塾」に完全に転換した塾があります。

北海道のI先生は言います。

「べったりくっついて教えていた昔が嘘のようです。私一人で30人の子供は楽に見ることが出来ますよ」

I先生がそれまで勤めていた札幌の塾から決別し、江別で開校した当時は、大手塾から生徒を使った誹謗中傷などの嫌がらせを受けたそうです。生徒も集まりませんでした。しかし、1年、2年、3年と地道に「自立指導塾」というものをチラシそして、ホームページで熱く語り続けたのです。

「自立」＝「放りっぱなし」「手をかけない」と言われたり、思われたこともあるそうです。実際に「自立」を謳ってそんな内容の塾もあるそうですから。しかし、諦めずに発信し続けるI先生の想いに共鳴する生徒・親が集まってきました。20名もいなかった塾が今や4倍の人数です。もちろん「自立指導塾」としての結果も出ていたからです。

「やらせる」ことは簡単です。宿題をどっさり出して、やってこなければ居残りさせて…。それを生徒が自分から勉強をするようになってもらう、それがどれだけ大変か、私にはI先生の苦労がよく分かります。

諦めずに生徒一人ひとりと毎日語り合うI先生の姿が容易に浮かんできます。

残念ながら先を越されました。私の理想は以前から「自立指導型塾」でした。今、移行の真最中です。自分で宿題を出し

て、自分で考えて学習できる生徒が、毎年着実に増えています。もう一步だと思っています。

小学生の中でも、自分で間違えた漢字のテストを作って、自分で答え合わせができるまでになった生徒もいます。そして学校の授業より先に進みたいから、自分で7ページも8ページも宿題を出す。3学期からは次の学年の内容を勉強したいから、2学期までに現学年を終わらせたい。だから今日はここまで進めなければならない、と。

こんな生徒を見ているとうれしくなります。逞しさを感じます。

でも入塾当初から皆がそんな生徒じゃなかったんです。むしろ逆の場合が多いのです。勉強が嫌いで仕方がなかった。宿題もやってこないことも結構ありました。学校の授業の進度よりも遅れる……。しかし、「どうしたいの?」「どうなりたいの?」と毎度毎度問いかけていくうちに数ヶ月間かかって、自分の中の答えが見つかった。だからやらされるのではなく、自分の答えに向かって実行する。なりたい姿になるためにはどうすればいいのか、それを考えながら。

以前の「銀道」を読みました。あ、こんなことを書いていたんだ、そういう思いでした。4年前に書いたことをもう一度書きます。ドロシーローノルトさんが書いた詩です。知っている方もいるかと思えます。

「子は親の鏡」

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる

とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる

不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる

「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもは、みじめな気持ちになる

子どもを馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる

親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる

叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう

励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる

広い心で接すれば、キレる子にはならない

誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ

愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ

認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる

見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる

分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ

親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る

子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ

やさしく、思いやりをもって育てれば、子どもは、やさしい子に育つ

守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ

和気あいあいとした家庭で育てば、

子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる

添付のDVDは「心の授業」9月版です。生徒には9月上旬に見てもらいました。次回は11月版を添付します。私はそれを見て5回も泣きました。(笑)

では次回まで。最後までお読みいただきましてありがとうございます。

*カブトムシ、何と10月8日現在まだ生きてます!

エジソンクラブは『年長さん』から小学4年生までを対象にして 算数の計算・文章問題・漢字を学んでゆきます。エジソンクラブの算数は具体的に視覚に訴えながら学習を進めます。たとえば、まとまりを子供に理解させるためには「5円玉」「10円玉」また「ソロバン」などを絵にして理解を深めさせますから、**指をおって計算**をする方式から楽に、そして早く、抜け出すことができまとまりの概念が定着します。また、パズル・積み木を使った学習を行います。

『K式教室』との違いは何ですか

保護者の方からいただく質問として一番多いのは『K式教室』『G教室』との違いはなんですかという質問です。

お答えします。

エジソンクラブは単純暗記学習・パターン学習による詰め込み学習はいたしません。**理解が大切**と考えます。

また文章問題の指導に力を入れています。毎回、**文章問題プリント**を学習します。

たとえば小学3年生の暗算による引き算では、**減加法**だけでなく、**減減法**の学習も行います。

エジソンクラブは時間から時間まで責任指導いたします。「K式算数教室」のようにできたら帰っていいよスタイルではありません。

入室退出時間はメールでお知らせいたしますので教室の前でお待ちいただく必要がありません。

低学年では自立学習が可能なお子様は限られています。したがって疑問があれば**その場で指導**します。

暗算による引き算

12 - 7 の計算を減加法では

12 を 10 と 2 に分けて 10 から 7 を引きます

上記の答えの 3 に 2 を加えるという

減算 加算を行います。

減減法では

7 を 2 と 5 に分けて 12 から 2 を減算します。

上記の答えの 10 から 5 を引いて答えの 5 を導き出します。

減算 減算を行います。

減減法で引き算の暗算をすると頭の中で引き算を 2 回やることになり、引き算の訓練にもなりますがなによりも「引き算なのになんで足し算をするの？」という子供の単純な疑問にも答えられるのです。

減減法でなくてはいけないというものではないのですが指導要領にも記載されている公式な学習法ですがなぜか学校でも減加法によって学習しているようです。減減法の特徴としては引き算が早くなります。

京大個別会の 120 人の京大生に質問しました

ソロバン塾に通ったことがありますか？

Yes 50%

スイミングに通ったことがありますか？

Yes 30%

ピアノを習ったことがありますか？

Yes 119 人 (1 人はバイオリンを習っていた)

K 式塾に通ったことがありますか？

Yes 2 人